

資料 1

恩納村エコツーリズム推進協議会

第 2 回検討委員会

次第

日時：令和 7 年 10 月 28 日（火）14：00～16：00

形式：オンライン形式

1. 開会
2. 第 1 回検討委員会振り返り
3. 観光利用実態調査進捗及び調査結果（中間報告）について
4. アンケート調査について
5. 意見交換（各委員からの助言等）
6. 今後の取組みについて
7. 閉会

【配布資料】

資料 1：次第

資料 2：第 2 回検討委員会振り返り

資料 3：R7 恩納村エコツーリズム推進にかかるマリンレジャー利用実態調査 調査結果

資料 4：恩納村エコツーリズム推進協議会_実施計画抜粋（WEB アンケート）

資料 5：恩納村エコツーリズム推進協議会（WEB アンケート）

【参考資料】

（参考資料 1）Zoom 設定

（参考資料 2）机上検討・現地踏査_地点図

（参考資料 3）恩納村エコツーリズム推進協議会（WEB アンケート）

- ① 観光客向けアンケート URL：<https://questant.jp/q/HPYNI8N5>
- ② 事業者向けアンケート URL：<https://questant.jp/q/OAB38MC7>
- ③ 地域住民向けアンケート URL：<https://questant.jp/q/3VKVCBDP>
- ④ 関係者向けアンケート URL：<https://questant.jp/q/MRGXGXWI>

第 1 回検討委員会 振り返り

第1回検討委員会 議題

- 1, 長浜村長あいさつ
- 2, 委員自己紹介
- 3, 恩納村エコツーリズム推進協議会実施計画説明
- 4, 意見交換

第1回検討委員会 議題

1, 長浜村長あいさつ

- ・恩納村サンゴの村宣言とエコツーリズム推進協議会設立背景について
- ※議事録参照

2, 委員自己紹介

※議事録参照

3, 恩納村エコツーリズム推進協議会実施計画説明

※議事録参照

第1回検討委員会 議題

4, 意見交換（主な意見等を抜粋）

- ・ 目標の指標を数値化すること、モニタリングの方法も視野に入れて設計することを求める
 - ・ 大きな観光のトレンドとして、自然共生型の観光が求められている。
 - ・ 人的な環境負荷を図る仕組みやモニタリングの仕組みを検討する
 - ・ 海域等の利用者負担の仕組み構築にあたり、アンケートで負担の意思や金額についても調査し、根拠となるデータを収集することも重要
 - ・ 海域だけではなく、周辺環境への影響も含めて行ったほうがよい
 - ・ 漁業関係者など、利害関係者の参加は引き続きもとめたい
 - ・ マスメディアなど、幅広い関係者も巻き込むことが必要
 - ・ 地域への情報発信や参加の場を用意することを求める（事前周知含め）
 - ・ 海域の特定自然観光資源指定は慶良間に続き2例目となるが、条例が策定されておらず機能していない。国内では先進事例がないが、西表島の事例は参考になる。
 - ・ 地域住民や関係者をしっかり巻き込むためのデザインが重要。
 - ・ 説明会よりも座談会とした方が対話形式で進めることができる
 - ・ 恩納村の質の高い観光やGreenFinsなど、発信する場所や機会を提供することも重要。ハード整備なども視野に入れるべき
 - ・ ダイビング船の安全対策ガイドラインを公開
- ※詳細は議事録参照

2025.10.28

一般財団法人沖縄県環境科学センター

R7恩納村エコツーリズム推進にかかる マリンレジャー利用実態調査 進捗及び調査結果（中間報告）

◆業務背景および目的

背景：真栄田海岸（青の洞窟）に代表される人気のマリレジャースポットでは、インバウンドを含む来訪客数が増加している。参入障壁が低い業界であることから、質の低いマリレジャー事業者や訪日外国客専門の無許可事業者なども参入し価格破壊を招いており、安全が十分に確保されず水難事故も多発している。また、過剰利用（オーバーツーリズム）により、路上駐車などの地域環境や、サンゴ礁生態系への影響が懸念されており、「無法地帯」が進んでいる。

目的：エコツーリズム推進全体構想の特定地域観光資源の検討に資する情報として、真栄田岬を含む村内の主なマリレジャースポット（陸域からエントリーできる地点）において海域利用実態調査を行い、海域利用者数の実態を精度よく把握する。

◆調査項目

①真栄田岬のマリレジャー利用実態調査

（利用者および乗船者数カウント、タイムラプス撮影等）

②裏真栄田ビーチ周辺のマリレジャー利用実態調査

（利用者数カウント、タイムラプス撮影等）

③アポガマ周辺の利用実態調査

（路上駐車状況の把握）

④陸域からアクセスできるマリレジャー地点の現地調査

（関係者ヒアリング、現地踏査による地点検討、利用者数カウント、周辺状況の把握）

①真栄田岬のレジャー利用者数調査

目的：施設からの海域利用者数、乗船者数の現況把握

○調査方法

- ・ 真栄田岬の階段上から動画を撮影し、施設利用者数を記録した。
- ・ 船舶からエントリーする乗船者数は、双眼鏡を用いて調査員が随時カウントを行った(スノーケルorダイビングも識別して記録)。
- ・ 海域の利用範囲および利用者の密度を算出するために、海域全景が見渡せる位置（ハイアングル位置）からタイムラプス撮影を実施した。

調査時期： 9月6日(土) ※施設からの海域利用が可能な海象条件の日

調査時間： 8：00～17：00

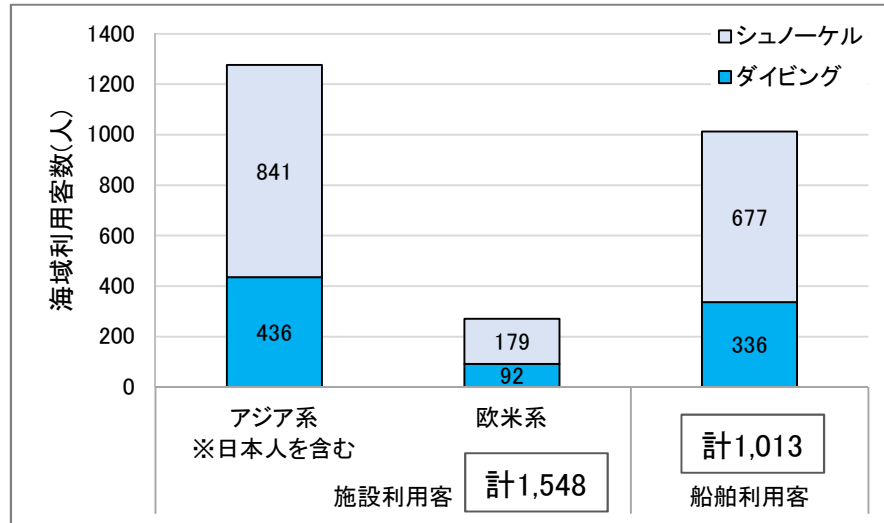
＜調査実施状況＞



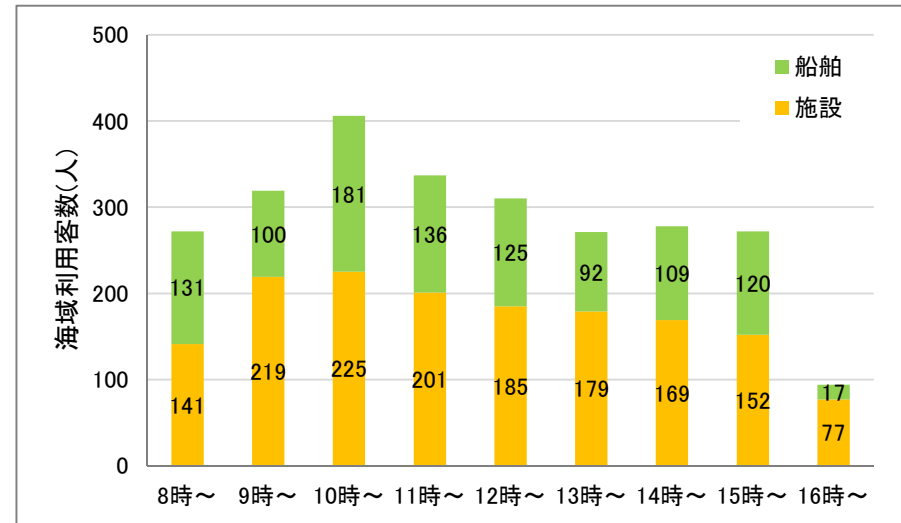
①真栄田岬のレジャー利用者数調査（利用客カウント調査）

◆調査結果

合計海域利用客数(8時～17時)



時間当たりの海域利用客数



- ・2025年9月6日の真栄田岬の1日の海域利用客数は、合計2,561人(施設: 15,48人 船舶:1,013人)。
- ・海域利用客のアクティビティは、施設利用および船舶利用いずれもシュノーケルの割合が多かった施設66%、船舶67%)。
- ・施設利用客のうち、アジア系ではない欧米系の利用客は約18%。台湾・中国・韓国系ほか東南アジア系と思われる利用客も多数確認されたものの特定は困難であったため、本調査では区別していない。

- ・施設および船舶の利用客数は、いずれも10～11時が最も多かった。
- ・時間当たりの海域利用客数は、10～11時が最も多く、合計406人であった。
- ・16～17時を除く全ての時間帯で、海域の利用客数は250人以上であった。

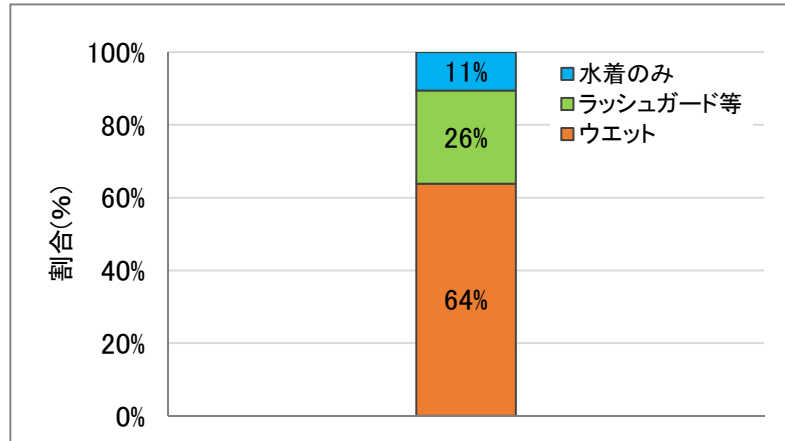
<参考> ピーク時の試算

- ・施設駐車場台数データより、2025年7～9月の最大駐車場台数は8/24(883台)で、調査日(645台)の1.37倍。ピーク時には最大で計3,500人が訪れたと試算。

①真栄田岬のレジャー利用者数調査（利用客カウント調査）

◆調査結果

施設利用客の服装



	アジア系	欧米系
水着のみ	9%	44%
ウエットorラッシュガード等	91%	56%
人数	1278人	270人



- 施設利用客のウエットスーツまたはライフジャケット等の浮力体の着用率は、78%だった(全1548人のうち1214人が着用)。
- 施設利用客の服装は、ウェットスーツの割合が最も高く64%、次いで、ラッシュガード等（下は水着着用、Tシャツ着用なども含む）が26%であり、水着のみ（男性なら上半身は裸）は11%だった。
- 水着のみ着用している割合は、アジア系では9%であったのに対し、欧米系では44%と割合が多かった。
- 未就学児とみられる子供も40名程度が確認されたほか、市販の浮き輪の利用など海水浴と同様な軽装備での利用なども散見された。

①真栄田岬のレジャー利用者数調査（ハイアングル調査）

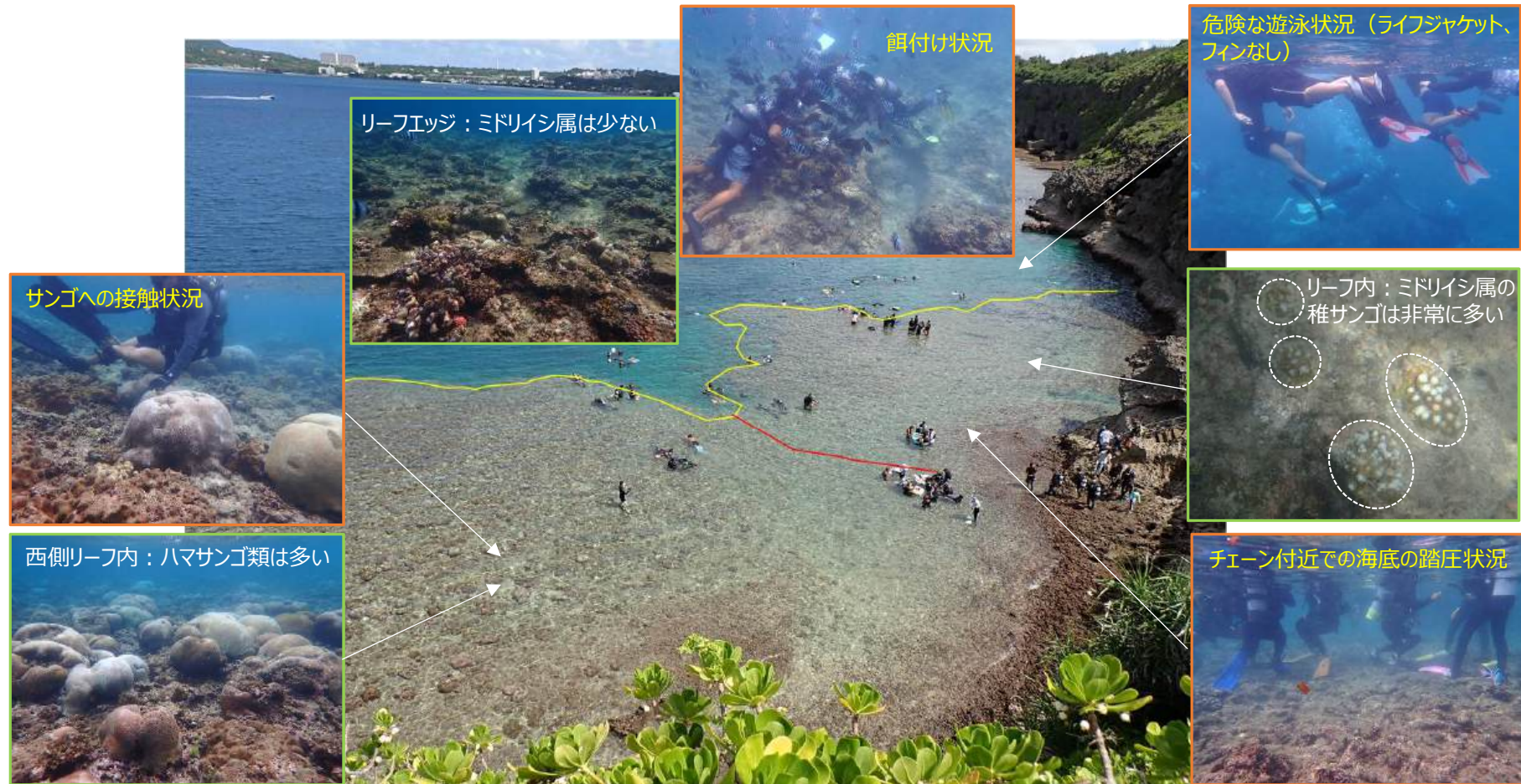
◆調査結果



- ・海域利用者は、真栄田岬のリーフ内を広い範囲で利用していた。特に、チェーンより西側エリアよりも、青の洞窟がある東側エリアの方が利用者の浅場に立ち入る人数が多い傾向がみられた。
- ・リーフ内での踏圧状況や入域範囲は、潮位によって違いがあり、干潮付近の潮位が低い時間帯ではリーフエッジ付近まで歩いて立ち入る利用客が多く、踏圧の影響が懸念された。一方、満潮付近の潮位が高い時間帯は、フィン着脱等のために海底に立つ利用客は階段付近に集中した。
- ・今後、チェーンより西側・東側エリアごとに面積あたりの利用人数、さらに、踏圧影響のある海底に立つ（または歩く）利用人数などを解析予定である。

①真栄田岬のレジャー利用者数調査（ハイアングル調査）

◆補足調査結果（海域利用状況、サンゴ生息状況）



- ・リーフエッジ、リーフ内のサンゴ類は、比較的白化の影響の少ない種類は生残しているものの、ミドリイシ属は2024年白化の影響で激減。しかし、稚サンゴの加入は非常に多く回復ポテンシャルは高い。
- ・チェーン東側エリアを中心にリーフ内での踏圧の影響が懸念。海中は非常に混雑しており、ツアー客に対するガイド人数が少ない場合や、危険な遊泳状況（ライフジャケットもフィンもなし）も散見。

②裏真栄田ビーチ周辺のレジャー利用者数調査

目的：海域利用者数の現況把握

○調査方法

- ・ 裏真栄田ビーチ、ザネー浜、その間のハユウ浜から海域に入域する利用者数のカウントを行った。
- ・ 海域の利用状況を把握するために、ハイクングル位置からタイムラプス撮影を実施した。

調査時期： 9月23日(火) ※祝日

調査時間： 8:00～17:00



<調査位置図>

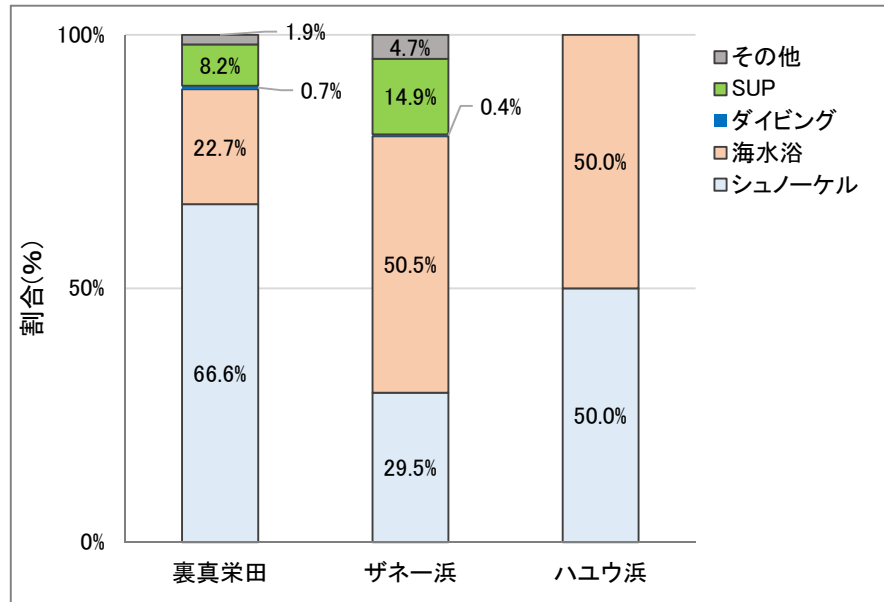


<調査位置 詳細図>

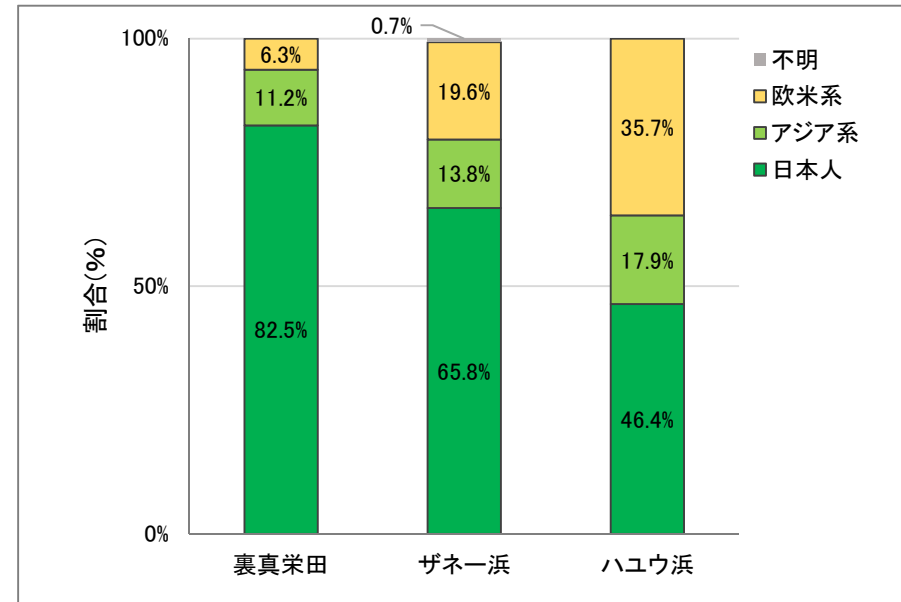
②裏真栄田ビーチ周辺のレジャー利用者数調査

◆調査結果

利用形態ごとの利用者数



海域利用者の割合



- ・ 2025年9月23日の裏真栄田岬エリア(裏真栄田、ザネー浜、ハユウ浜)の1日の海域利用客数は、合計731人であった(裏真栄田：428人、ザネー浜：275人、ハユウ浜：28人)。
※当日は真栄田岬施設(階段からの海域エントリー)も入域可能であった
- ・ 利用形態の割合は、裏真栄田ではシュノーケルが67%と高く、ザネー浜では海水浴が50%、シュノーケルが30%、SUPが15%であった。ハユウ浜では海水浴とシュノーケルが半数であった。

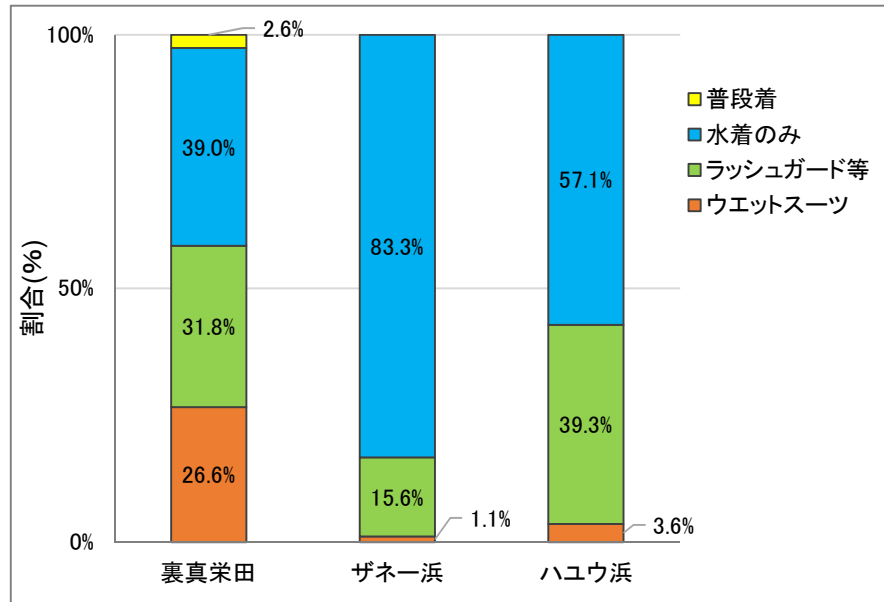
- ・ 海域利用者は、いずれの地点も日本人が最も多く、特に多い裏真栄田では83%であった。
- ・ ハユウ浜は、ほかの浜と比べて欧米系の利用客が多く、約4割が欧米系であった。

※ 利用客までの距離が近く、話し声が判別できた場合には、日本人とアジア系を区別して記録。ただし、アジア系には日本人も含む場合もある。

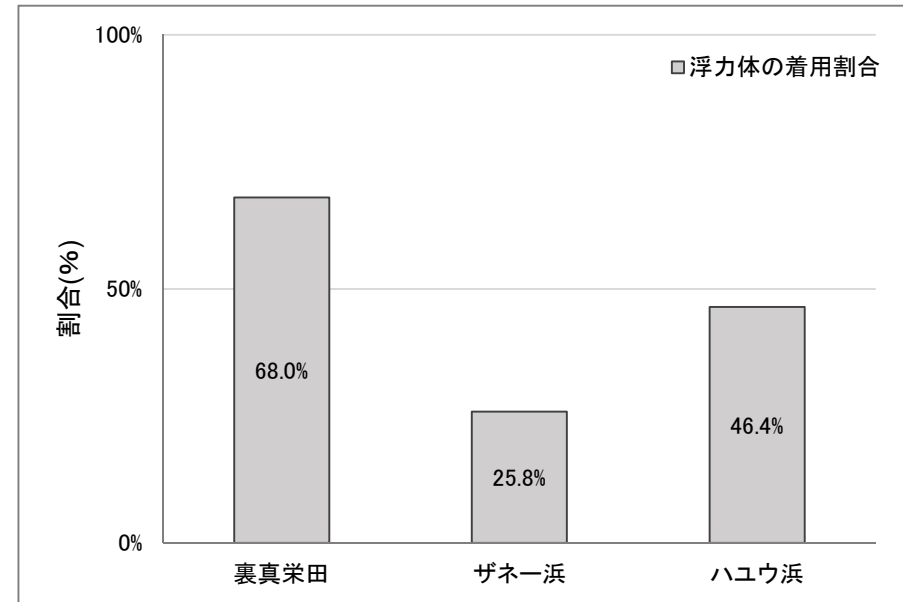
②裏真栄田ビーチ周辺のレジャー利用者数調査

◆調査結果

地点ごとの利用者の服装



各浜での浮力体着用率



- ・ 海域利用者の服装は、全ての浜で水着のみの割合が最も高く、特に海水浴利用が多かったザネー浜では83%であった。
- ・ ウエットスーツの着用率は、シュノーケル利用が多かった裏真栄田では27%であった。一方、ザネー浜、ハユウ浜ではウエットスーツの着用率5%未満であった。

- ・ 各浜のウエットスーツまたはライフジャケット等の浮力体の着用率は、裏真栄田で68%(428人中291人)、ザネー浜で25.8%(275人中71人)、ハユウ浜で46.4%(28人中13人)であった。

②裏真栄田ビーチ周辺のレジャー利用者数調査

◆補足調査結果（海域利用状況、サンゴ生息状況）

※干出したりする影響で海水面に近い部分がドーナツ状に死滅した状態。ヒメジャコ等の穿孔性の生物が生息すること多い。

沖合の塊状ハマサンゴの生育状況
(頂部はマイクロアトール)

SUP利用状況

講習ポイント

講習ポイント周辺の浅場のサンゴ
生育状況

危険な遊泳状況（ライフジャケット・
フィンなし、素足・水着）

ヒメジャコの生息

シュノーケルポイント

塊ハマポイント

シュノーケルツアーの状況

サンゴが生息する水深帯における
利用状況（踏圧の影響も懸念）

- ・ 沖合のシュノーケルポイントでは、塊状ハマサンゴ類が生息しているほか小規模にアマモ場も分布。講習ポイント周辺の浅場では、キクメイシ科やシコロサンゴ属などが主体でミドリイシ属は少ない。
- ・ 静穏なリーフ内であり、子供連れやビギナー層、一般利用が多く、水着のみなど軽装が多い。利用形態も多様。特に、ビーチ近くのサンゴ類が生息する浅場の岩礁では踏圧の影響が懸念される。

②裏真栄田ビーチ周辺のレジャー利用者数調査

◆その他の状況（潜水機材やSUPの占有状況、路上駐車状況）



- ・裏真栄田ビーチには、ツアー用のSUP数台が朝から夕方(17時頃)まで置かれていた。日中のツアーで使用していると思われ、そのまま放置しているか、夜(18時以降)に回収しているかは不明。
- ・県道から裏真栄田ビーチの入り口付近の路上には、事業者がダイビング器材を多数置いていた。ツアー客はこの場所で機材の着脱を行っており、日中は常時置かれた状態であると考えられる。また、ツアー客や機材を降ろすため、ワゴン車やバスが停車している状況が確認された。
- ・ザネー浜からハユウ浜にかけての村道で路上駐車をしている状況も一部確認された。
- ・真栄田岬活性化施設駐車場から歩いてくる利用客が多いが、道路幅は比較的に狭く、見通しが悪いカーブもあるなかで、速度をあまり落とさずに走行する車両もあり、事故の危険も懸念。

③アポガマ周辺の利用実態調査

目的：地域で問題が顕在化している農道での路上駐車状況の把握

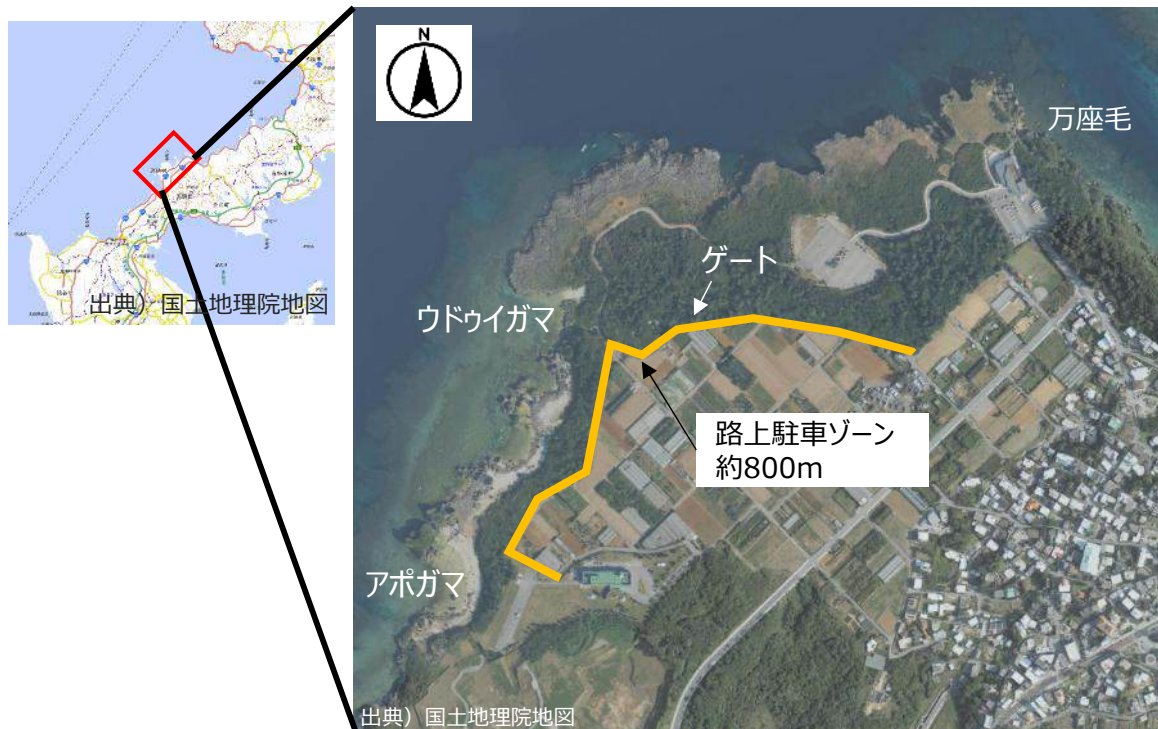
○調査方法

路上駐車が多い区域において、
1～2時間おきに路上駐車状況を記録した。

調査時期： 8月25日(月)

調査時間： 8：00～17：00

＜調査位置図＞



③アポガマ周辺の利用実態調査

◆調査結果

路上駐車が多く確認されたエリア



路上駐車するマリンレジャー関係者



路上駐車状況

＜アポガマ入口周辺＞



＜ウドウイガマ周辺＞



＜ゲート周辺＞



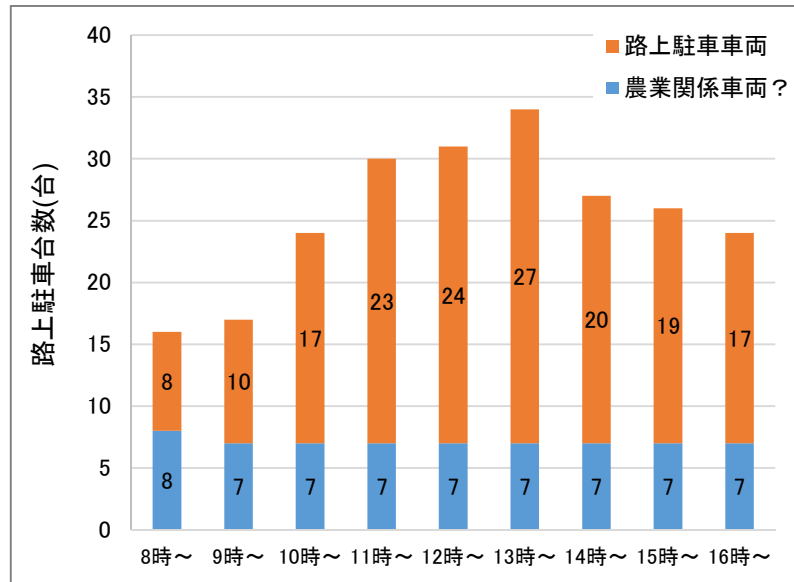
＜農家関係とみられる車両＞



③アポガマ周辺の利用実態調査

◆調査結果

時間当たりの総駐車台数



各エリアの最大駐車台数

エリア	最大駐車台数
アポガマ	19台
ウドウイガマ	7台
ゲート周辺	3台



1日に確認された種別ごとの路上駐車台数

エリア	レンタカー	Yナンバー	県内ナンバー
アポガマ	21台	3台	28台
ウドウイガマ	8台	6台	11台
ゲート周辺	0台	0台	7台

※1 ナンバーにより
同一車両を識別
して整理

※2 県内ナンバーは
マリンレジャー事業
者も含む

- ・ 2025年8月25日は平日であったものの、調査の全時間帯で路上駐車する車両が確認された。
- ・ 調査範囲内の合計路上駐車台数が多かったのは13～14時であり、その時間帯の合計車両台数は27台（農業関係車両を除く）であった。
- ・ アポガマ入口およびウドウイガマ入口周辺では、レンタカー、Yナンバーおよびマリンレジャー事業者と思われる車両も確認された。特にアポガマ入口周辺ではレンタカーの割合が多かった。一方、ゲート周辺では、県内ナンバー車両のみ確認された。

④その他 陸域からアクセスできるマリレジャー地点の現地調査

目的：過剰利用や地域環境影響が懸念される地点の現状把握

◆調査方法

事前にマリレジャー協会や各行政区の区長などにヒアリングやアンケート調査を行ったほか、机上検討により陸域からアクセスできる可能性のある海岸を検討し、20地点程度で現地踏査を実施。それらの情報を踏まえて選定した地点において、陸域からの海域利用者数のカウントおよび付近の車両の駐車状況等の記録を行った。

地点数：現地調査4地点、補足調査地点4地点

調査日程：瀬良垣周辺 9/13(土) 名嘉真・希望ヶ丘ビーチ 9/29(月)
(補足調査) 久良波海岸 9/6、ギナン原海岸 9/13、
オスカービーチ・安富祖小学校前ビーチ 9/29

調査時間：8:00～17:00



④その他 陸域からアクセスできるマリンレジャー地点の現地調査

地域や海洋環境影響への過剰利用リスクの評価（事前検討）

◆過剰利用リスクの評価

- ・管理されていないビーチや海岸で、詳しい利用実態が把握できていない地点において、マリンレジャーポイントとしてのポテンシャル、地域環境および海洋環境（主にサンゴ類）への負荷を相対的に評価。
- ・上記の各項目の相対評価を踏まえて、今後、過剰利用されるリスクを簡易的に評価した。
 - ↳ 相対的な評価値を便宜的に設定し、合計点数が高い（リスクが高い）地点で調査を実施

①過剰利用リスク評価値が高い地点（概ね9ポイント以上）

：4地点で現地調査

②過剰利用リスク評価値が比較的に高い地点（6～7ポイント）

：補足的な定点カメラ調査(4地点)や、自治区アンケートへの追加確認など(4地点程度)

評価値	マリンレジャーポイントの有するポテンシャル			地域環境への負荷		環境負荷	過剰利用リスク評価
	海岸へのアクセスしやすさ	スノーケル等ポイントとしての魅力度(サンゴ、その他生物)	無料駐車スペースの広さ	路上駐車状況	その他の影響(ゴミ、水着で散策)	サンゴへの接触リスク	
0	駐車困難	低い	駐車困難	情報不足	情報不足	低い	≤ 5 : — 6～8: 簡易調査or 情報収集 ≥ 9 : 調査
1	アクセス可能	低い ～ 中程度	狭い(≤ 6 台)	少ない	小さい ～ 中程度	低～中	
2	アクセスしやすい	中程度	中程度(7～19台)	中程度	大きい	高い	
3	—	高い	広い(≥ 20 台)	多い	非常に大きい	非常に高い	

※ 安全リスクに過剰利用リスクとの関連性が強くない場合もあるため評価項目には含めず、付帯情報として整理。

【過剰利用リスク評価】 ※下記の相対評価は、現地踏査や机上検討による想定したものであり参考値としての取り扱いとする。

地点情報			マリンレジャーポイントのポテンシャル			地域環境への負荷		環境負荷	過剰利用 リスク評価	調査地点設定等の対応	安全リスク
地区	地点 No	名称(ビーチ名、駐車場名など)	海岸への アクセス しやすさ	スノーケル等ポイントとしての 魅力度(サンゴ、その他生物)	無料駐車 スペース の広さ	路上駐車 状況	その他の影響 (ゴミ、水着で散策)	サンゴへの 接触リスク			リーフカレント、 航行船舶数など
名嘉真	1	希望ヶ丘ビーチ	2	1	2	3	2	1	11	◎ ヒアリング、現地調査	1
	2	名嘉真地区 (名嘉真の浜より南側)	1	1	2	1	0	1	6	○ ヒアリング	2
安富祖	3	熱田ビーチ	2	0	1	1	0	1	5		1
	4	安富祖小学校前ビーチ	1	1	2	2	0	1	7	○ 定点カメラ(補足調査)	1
	5	オスカービーチ(アカティータ・パンタ タ陽の浜駐車場)	1	2	1	2	0	1	7	○ 定点カメラ(補足調査)	2
	6	亀の浜(みゆきハマバルリゾートの ビーチ隣接)	2	2	2	2	0	1	9	◎ 現地調査	2
瀬良垣	7	瀬良垣海岸 (ナカユクイ展望台下)	2	2	3	1	0	1	9	◎ 現地調査	2
	7-2	瀬良垣ダイヤモンドビーチ (御菓子御殿下)	1	2	3	2	2	1	11	◎ 現地調査	2
	8	瀬良垣漁港東側の船溜まり周辺	2	0	2	1	0	0	5		2
	9	ギナン原海岸 (瀬良垣海岸保全地域)	2	0	1	2	1	0	6	○ 定点カメラ(補足調査)	1
恩納	10	ナビービーチおよび 周辺(サンゴ養殖場)	2	1	3	1	1	1	9	◎ 村営ビーチのため調査対象外(懸念はサン ゴ養殖場へのスノーケルだが利用は少数)	2
	A	アボガマ周辺 ※路上駐車状況調査 実施	2	3	2	3	2	2	14	◎ 路上駐車調査(実施済)8/25	3
	B	観光協会南側の海岸	2	2	2	0	1	0	7	○ 観光協会ヒアリング	1
	11	渡久地政信記念碑周辺 (恩納村バイパス交差点)	2	0	2	2	1	0	7	△ アンケート回答、水着で集落を歩く、カヤッ ク等の放置	1
谷茶	C	谷茶OIST管理地周辺	2	0	1	1	0	0	4		1
	12	谷茶の浜(駐車スペース①)	0	0	0	1	0	0	1		1
	13	谷茶の浜(駐車スペース②)	1	0	2	1	0	0	4		1
	14	谷茶の浜(おむすび茶屋前)	0	0	0	1	0	0	1		1
	15	谷茶前の浜の碑 公園	1	0	2	1	0	0	4		1
富着	16	富着ビーチ北側(カフォーリゾート フ チャクコンドホテル前)	0	0	0	2	1	0	3	アンケート回答、ゴミの放置(たまに)	1
	17	富着ビーチ(富着バス停前)	1	0	1	2	1	0	5	アンケート回答、ゴミの放置(たまに)	1
仲泊	D	仲泊地区(海岸) ※アンケートより	2	0	2	2	0	0	6	△ アンケート追加質問・回答(予定)	1
山田	18	久良波海岸 (琉球ガラス工房前)	1	2	1	2	0	1	7	○ 定点カメラ(補足調査)	2
宇加地	E	宇加地、与久田ビーチ周辺 ※アンケートより	0	0	1	2	1	1	5	アンケート回答、水着で集落を歩く	1

【過剰利用リスク評価】 ※過剰利用リスク評価より、現地調査：4地点※アポガマ除く、補足調査地点 または 追加情報収集：4地点

地点情報			マリンレジャーポイントのポテンシャル			地域環境への負荷		環境負荷	過剰利用 リスク評価	調査地点設定等の対応	安全リスク
地区	地点 No	名称(ビーチ名、駐車場名など)	海岸への アクセス しやすさ	スノーケル等ポイントとしての 魅力度(サンゴ、その他生物)	無料駐車 スペース の広さ	路上駐車 状況	その他の影響 (ゴミ、水着で散策)	サンゴへの 接触リスク			リーフカレント、 航行船舶数など
名嘉真	1	希望ヶ丘ビーチ	2	1	2	3	2	1	11	◎ ヒアリング、現地調査	1
	2	名嘉真地区 (名嘉真の浜より南側)	1	1	2	1	0	1	6	○ ヒアリング	2
安富祖	3	熱田ビーチ	2	0	1	1	0	1	5		1
	4	安富祖小学校前ビーチ	1	1	2	2	0	1	7	○ 定点カメラ(補足調査)	1
	5	オスカービーチ(アカティータ・パンタ タ陽の浜駐車場)	1	2	1	2	0	1	7	○ 定点カメラ(補足調査)	2
	6	亀の浜(みゆきハマバルリゾートの ビーチ隣接)	2	2	2	2	0	1	9	◎ 現地調査	2
瀬良垣	7	瀬良垣海岸 (ナカユクイ展望台下)	2	2	3	1	0	1	9	◎ 現地調査	2
	7-2	瀬良垣ダイヤモンドビーチ (御菓子御殿下)	1	2	3	2	2	1	11	◎ 現地調査	2
	8	瀬良垣漁港東側の船溜まり周辺	2	0	2	1	0	0	5		2
	9	ギナン原海岸 (瀬良垣海岸保全地域)	2	0	1	2	1	0	6	○ 定点カメラ(補足調査)	1
恩納	10	ナビービーチおよび 周辺(サンゴ養殖場)	2	1	3	1	1	1	9 ※	◎ 村営ビーチのため調査対象外(懸念はサン ゴ養殖場へのスノーケルだが利用は少数)	2
	A	アポガマ周辺 ※路上駐車状況調査 実施	2	3	2	3	2	2	14	◎ 路上駐車調査(実施済)8/25	3
	B	観光協会南側の海岸	2	2	2	0	1	0	7	○ 観光協会ヒアリング	1
	11	渡久地政信記念碑周辺 (恩納村バイパス交差点)	2	0	2	2	1	0	7	△ アンケート回答、水着で集落を歩く、カヤッ ク等の放置	1
谷茶	C	谷茶OIST管理地周辺 (神武天皇ゆかりの地)	2	0	1	1	0	0	4		1
	12	谷茶の浜(駐車スペース①)	0	0	0	1	0	0	1		1
	13	谷茶の浜(駐車スペース②)	1	0	2	1	0	0	4		1
	14	谷茶の浜(おむすび茶屋前)	0	0	0	1	0	0	1		1
	15	谷茶前の浜の碑 公園	1	0	2	1	0	0	4		1
富着	16	富着ビーチ北側(カフーリゾート フ チャクコンドホテル前)	0	0	0	2	1	0	3	アンケート回答、ゴミの放置(たまに)	1
	17	富着ビーチ(富着バス停前)	1	0	1	2	1	0	5	アンケート回答、ゴミの放置(たまに)	1
仲泊	D	仲泊地区(海岸) ※アンケートより	2	0	2	2	0	0	6	△ アンケート追加質問・回答(予定)	1
山田	18	久良波海岸 (琉球ガラス工房前)	1	2	1	2	0	1	7	○ 定点カメラ(補足調査)	2
宇加地	E	宇加地、与久田ビーチ周辺 ※アンケートより	0	0	1	2	1	1	5	アンケート回答、水着で集落を歩く	1

④その他 陸域からアクセスできるマリンレジャー地点の現地調査 地域関係者へのヒアリング等の情報収集

◆恩納村マリンレジャー協会

【宇加字～富着】

- ・真栄田岬、裏真栄田ビーチ周辺以外において、陸域からエントリーできるマリンレジャーポイントとしては、[久良波海岸で米軍属などがビーチエントリー](#)している状況を散見（路駐）。

【瀬良垣～名嘉真】

- ・[瀬良垣のナカユクイポイント周辺の利用が多い](#)。エントリー場所は、展望台駐車場の崖下、御菓子御殿の施設を通ったダイヤモンドビーチ、亀の浜駐車場からの3地点ある。また、亀の浜の北側にあるオスカービーチ前の「アカティータ・バンタ 夕陽の丘駐車場」の北側にあるビーチへ降りる階段があり、利用している人もいる。
- ・ナカユクイ展望台には、危険性についての立て看板を村に設置。現状で利用を規制できるものではなく、[セルフポイントとしての情報も出てしまっている](#)ので、もし行くならライフジャケットなど安全に十分注意してほしいとお客さんには伝えている。
- ・ダイビング船も係留するポイントであり、スノーリング客との接所が危険な状況が散見されている。特に、[標識用のマーカーブイを持たないスキンド이버は非常に危険](#)。

④その他 陸域からアクセスできるマリンレジャー地点の現地調査 地域関係者へのヒアリング等の情報収集

◆恩納村農林水産課 海岸等保安員

- ・地域への影響や、安全性の観点から懸念される地点は真栄田岬周辺とアポガマ周辺。
- ・そのほかの地点は、やはり個人のマリンレジャー愛好者が利用している印象。米軍属の利用も多いと思われる。
- ・お菓子御殿（ダイヤモンドビーチ）、ナカユクイ展望台下の浜などは個人利用が多い印象。調査した方がよい地点と思われる。
- ・万座ビーチとナビービーチの間にあるビーチは、岩場がありスノーケルポイントになっているが、そばにホテルのレジャー船の係留施設、航路があるので、接触リスクが懸念されている。ホテル側とナビービーチ指定管理者との間で問題共有して調整中であり、近々、注意喚起看板を設置予定。
- ・ナビービーチに隣接する漁港の岸壁を乗り越えて、浜に立ち入り、サンゴ養殖場へスノーケルする事例も散見され、安全上も問題となっている。最近、岸壁に注意喚起看板が設置されており、今のところは落ち着いており、利用が増えているわけではない。

地域関係者へのヒアリング等の情報収集

◆御菓子御殿（恩納店）

- ・ハイシーズンの土日祝日などは展望台駐車場が満車になり、お店の駐車場に停める利用客もいる。注意すると、お土産を買うから駐車してよいだろう、と開き直す利用客もいる。しかし、お店としては主目的がマリレジャーであれば駐車禁止に該当すると判断している。
- ・利用は、8割くらいは日本人と思われる。浜に通じる階段のゲートは営業時間内（9:00～18:00）しか解放しておらず、ゲートが閉まっている朝や夜間は、立ち入り禁止にしている店の裏側からビーチに入る利用客もあり、防犯上も懸念。
- ・マリレジャーショップがお客さんを連れてくることもあり、58号線を挟んでお店の反対側にある従業員駐車場にマリレジャーショップのワゴンが勝手に停車していたこともある。

◆恩納村観光協会

- ・年に数回、協会と恩納村エコツーリズム研究所と協働した環境学習を実施している。そのほか、提携しているカヤックショップが利用しており、施設使用料を払ってシャワー利用。ただ、最近では、提携外のカヤックショップが勝手に駐車場を使っていることも散見される。
- ・シュノーケルもわずかだが利用がある。マナーの悪い例だと、施設のトイレで体を洗ったりしたケースもあり。
- ・注意喚起の看板を設置することも検討しているが、協会が目が届く範囲にあるので、そこまで大きな問題にはなっていない。

地域関係者へのヒアリング等の情報収集

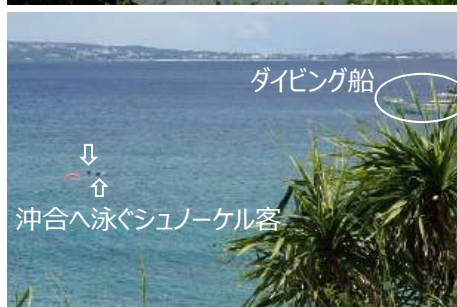
◆自治区（区長）へのアンケート調査（進捗）

行政自治区	回答	備考
名嘉真	△	名嘉真ビーチについては希望ヶ丘自治会にもヒアリング
伊武部希望ヶ丘	○	地域環境への影響や安全性のリスクなどに関する詳細な回答
喜瀬武原		海に面していない自治区
安富祖		
瀬良垣	△	ナカユクイ、ダイヤモンドビーチについては御菓子御殿、OMAIにヒアリング済
太田	○	ギナン原海岸（瀬良垣海岸保全地域、ANAインターコンチ近くの海外沿い）
恩納	○	特にアポガマ周辺
南恩納	○	恩納村バイパス交差点 付近
谷茶		
富着	○	路上駐車
前兼久	○	前兼久漁港内の目的外利用や違法駐車について
仲泊	○	路上駐車
山田		真栄田岬および周辺への追加情報があれば提供希望
真栄田		同上
塩屋		同上
宇加地	○	路上駐車等
計	○	8
16	△	2

⇒ 路上駐車などの地域環境への影響について、回答いただいた場所の情報を過剰利用リスクの相対評価に反映

過剰利用リスクが高い（9～11点）

7-2.ダイヤモンドビーチ（御菓子御殿）



瀬良垣周辺

（ナカユクイポイントほか沖合にダイビングポイントあり）

＜マリンレジャー利用に伴う問題点＞

- ・ 沖合にダイビングポイントがあり、遊泳距離が300-600m程あるものの陸域からエントリーするシュノーケル客もあり、船舶との接触リスクが懸念。
- ・ 御菓子御殿の駐車場は、ビーチ利用者は駐車禁止であるが、駐車する一般客もいるなど不適切な利用が顕在化。



注意喚起の看板（村設置）

7.瀬良垣海岸（ナカユクイ展望台下）



6.亀の浜



過剰利用リスクが高い（11点）

名嘉真・希望ヶ丘ビーチ

（近傍に希望ヶ丘地区、ホテルあり）



海岸利用に関する村条例の看板

＜マリンレジャー利用に伴う問題点＞ 自治会所属マリンレジャー事業者ご意見

- ・海水浴客やスノーケルなど一般利用の多く、外国人客もいる。近隣ホテル（ハレクラニ沖縄、希望ヶ丘地区内）から水着で歩いてくる客もいた。
- ・スノーケル客（スキndaイビングを含む）は、ライフジャケット未着用者も多く、沖合に流される、船舶との接触などの事故も懸念。
- ・駐車場がすぐに満車になるため、周辺の路上駐車もされている。サンセット時は特にビーチ来訪者が増え、58号線から希望ヶ丘地区へ通じる道路への路上駐車が顕在化。
- ・伊武部希望ヶ丘自治会では、自主的な安全管理を行っている。※自治会所属のマリンレジャー事業者が実施（名嘉真・希望ヶ丘ビーチ救難所 指定）
- ・子供を対象とした大規模なマリンレジャーイベント(30名規模)が不定期に開催されており、実質的にビーチを占有している状況になることや、ツアー客に対するガイド人数の不足など安全上の懸念点もある。



参考) サンゴ類への影響（海洋環境負荷）が小さい海域の例

- ・遠浅の砂礫底が広がっており、サンゴ類の分布は少ないことが想定される地点。
- ・レジャー利用形態は、カヤックやSUP等が中心であり、スノーケル利用は少ないと想定される（サンゴ類の多いリーフエッジまでの距離が遠い）。
- ・路上駐車や、海岸の不適切利用（騒音、ゴミ等）などの地域環境への影響の違いにより、過剰利用リスクが異なる。

過剰利用リスクが比較的に高い（6点）

9.ギナン原海岸



C.谷茶OIST管理地周辺

過剰利用リスク（4点）



11.恩納村バイパス交差点

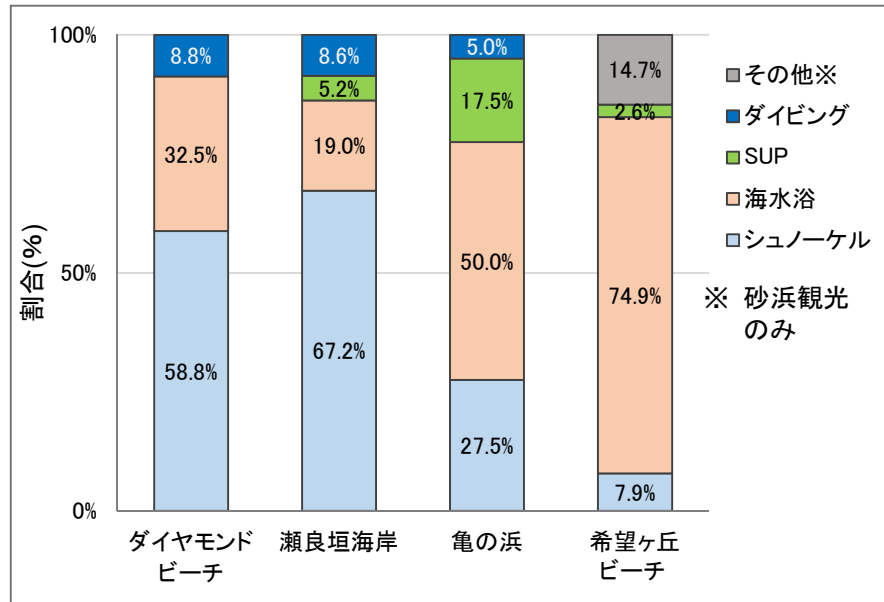
過剰利用リスクが比較的に高い（6点）



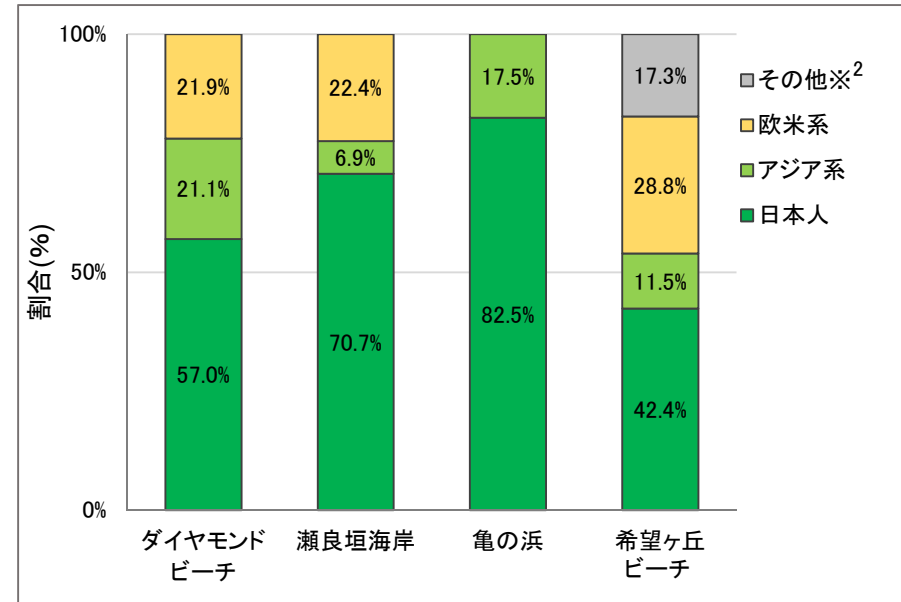
④その他 陸域からアクセスできるマリンレジャー地点の現地調査

マリンレジャー客利用実態調査結果（その1）

利用形態ごとの利用者数



海域利用者の割合



- ・ 2025年9月13日のなかゆくい周辺(ダイヤモンドビーチ、瀬良垣海岸、亀の浜)の1日の海域利用客数は、それぞれダイヤモンドビーチが114人、瀬良垣海岸が58人、亀の浜が40人だった。また、9月29日の希望ヶ丘ビーチの利用客人数は191人だった。

- ・ 各地点の海域利用者のアクティビティは、**ダイヤモンドビーチと瀬良垣海岸ではシュノーケルの割合が最も高く60～70%程度**、亀の浜と希望ヶ丘では、海水浴の割合が最も高く50～75%であった。

- ・ 海域利用者は、いずれの地点も日本人が最も多く、瀬良垣海岸と亀の浜では70～80%であった。ダイヤモンドビーチでは欧米系とアジア系がそれぞれ20%程度、希望ヶ丘ビーチでは欧米系が30%弱であった。

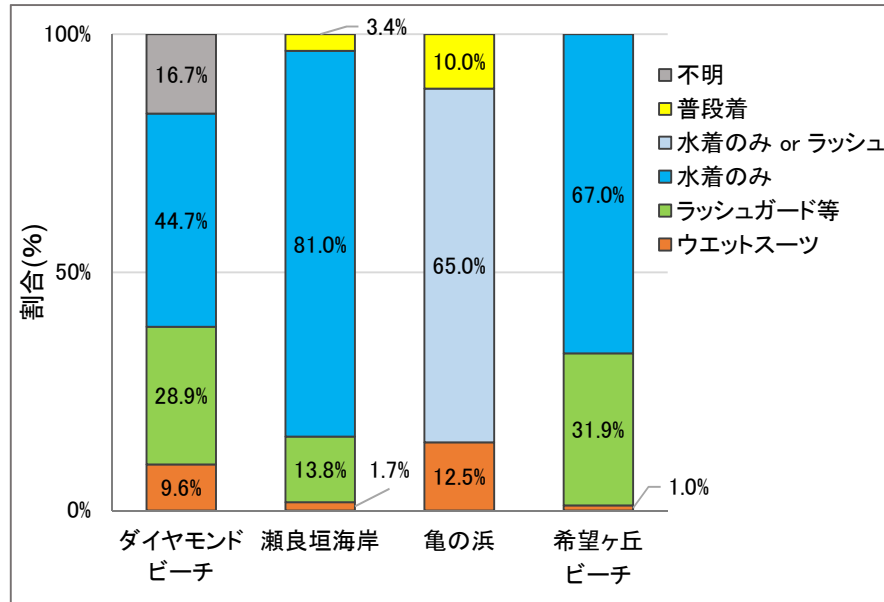
※1 利用客までの距離が近く、話し声が判別できた場合には、日本人とアジア系を区別して記録。ただし、アジア系には日本人も含む場合もある。

※2 その他は、インターナショナルスクール（中学生）みられる多国籍の学生であり、識別してカウントが困難であった、

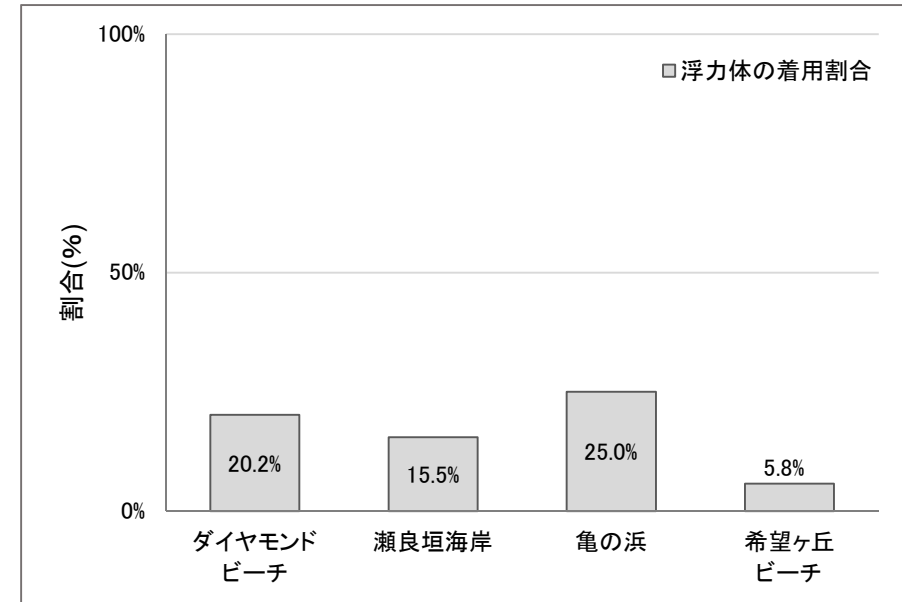
④その他 陸域からアクセスできるマリンレジャー地点の現地調査

マリンレジャー客利用実態調査結果（その2）

地点ごとの利用者の服装



地点ごとの浮力体着用率



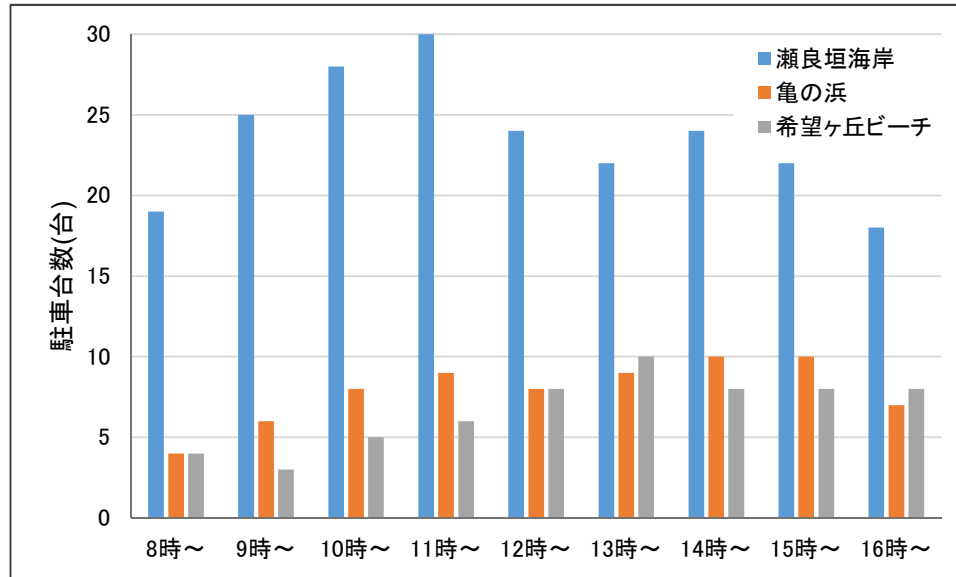
- ・多くの地点で水着のみの割合が高い傾向がみられ、特に瀬良垣海岸と希望ヶ丘ビーチでは70～80%程度と高かった。
- ・次いで、ラッシュガード等が14～32%であった（亀の浜は不明）。
- ・ウェットスーツは、ダイヤモンドビーチと亀の浜で10%前後であった。

- ・各地点のウェットスーツまたはライフジャケット等の浮力体の着用率は、ダイヤモンドビーチで20.2%（114人中23人）、瀬良垣海岸で15.5%（58人中9人）、亀の浜が25.0%（40人中10人）、希望ヶ丘ビーチで5.8%（191人中11人）であった。
- ・希望ヶ丘ビーチでは浮力体の着用が低かったのは、海水浴利用が多いことが関係していると推察。

④その他 陸域からアクセスできるマリンレジャー地点の現地調査

マリンレジャー客利用実態調査結果（その3）駐車状況

時間当たりの総駐車台数



各エリアの最大駐車台数

エリア	最大駐車台数
瀬良垣海岸	30台
亀の浜	10台
希望ヶ丘	10台

1日に確認された種別ごとの駐車台数

エリア	レンタカー	Yナンバー	県内ナンバー
瀬良垣海岸	24	14	63
亀の浜	12	0	28
希望ヶ丘ビーチ	29	1	10

※ ナンバーにより同一車両を識別して整理

- 各地点の最大駐車台数は、瀬良垣海岸周辺が30台、亀の浜が10台、希望ヶ丘ビーチが10台であり、駐車数が最も多かった時間帯は、瀬良垣周辺で11～12時、亀の浜で14～15時および15～16時、希望ヶ丘ビーチで13～14時であった。
- 1日に確認された種別の駐車台数では、**全ての地点でレンタカーが駐車**していることが確認され、**希望ヶ丘ビーチではレンタカーの駐車台数が県内ナンバーより多かった**。
- 明らかにマリンレジャー目的と思われる車両（車のそばに水浴び用の水缶があるなど）も確認できた。断定ができない車両も多かったものの、特に希望ヶ丘ビーチでは、ほとんどがマリンレジャー目的と推察される。

④その他 陸域からアクセスできるマリンレジャー地点の現地調査

マリンレジャー客利用実態調査結果

補足調査4地点

定点カメラ設置場所	日付	利用客数	利用形態	備考
4.安富祖小学校前 ビーチ	9/29	3名	スノーケル	
5.オスカービーチ	9/29	6名	3名スノーケル、3海水浴	
9.ギナン原海岸	9/13	6名	カヤック他 ※着替えのための利用	車両2台
18.久良波海岸	9/6	4名	スノーケル(夕方の利用)	車両1台



- ・ 5分インターバル撮影
- ・ 8:00～16:30頃
- ・ 利用客はいずれも少数であった。

④その他 陸域からアクセスできるマリンレジャー地点の現地調査 過剰利用リスク評価および現地調査結果の活用について

- 今年度は、個人利用を主体とした陸域からアクセスできるマリンレジャー地点（真栄田岬周辺を除く）の特徴整理や、一部地点で利用実態調査を行った。それらの結果については、今後、本業議会で恩納村全体のマリンレジャー利用を踏まえて「特定自然観光資源」を検討する際に、基礎データとして活用可能。
- 今後、「特定自然観光資源」の筆頭候補である真栄田岬において、営業の認可制度や遵守すべきルールなどの法規制が進められた場合、規制されていない他の場所に、事業者および一般利用客が分散あるいは集中する可能性もある。
 - ⇒ 特定箇所に利用が集中した場合、真栄田岬と同様に、過剰利用による問題が顕在化する恐れがある。
- 上記を防ぐため、特定自然観光資源の検討段階においては、過剰利用となるリスクを評価し、真栄田岬以外の地点も含めて広域的に考え方を整理・検討する必要がある。
- マリンレジャー事業者(ホテル含む)によるツアーとして行われているボートでのダイビング、スノーケルポイントの利用実態については、業界団体の協力が必要。
※OMA未所属の事業者へ対する協力依頼は課題

恩納村エコツアーリズム推進協議会
アンケート調査

(1) アンケート調査（実施概要）

■目的

- ・事業者、観光客、関係者などを対象にエコツーリズムに関する認知度、意識、意向等について調査
- ・恩納村（海域等）を利用する事業者の実態把握に向けた調査
- ・地域の合意形成等に向けた現状把握及び課題抽出

■対象

- ①事業者：営業実態、利用実態、認知度、理解度、意識・意向（賛同、拒否など）
- ②観光客：利用状況、認知度、理解度、意識・意向（賛同、拒否など）
- ③地域住民：利用状況、認知度、理解度、意識・意向（賛同、拒否など）
- ④関係者：利用状況、認知度、理解度、意識・意向（賛同、拒否など）

■手法

ウェブアンケート（QRコード等の周知）

■タッチポイント

HP、LINE、広報誌、説明会、フライヤー・ポスターなど

■サンプル

- ①事業者：100社
- ②観光客：200名
- ③地域住民：100名
- ④関係者：50社

調査

(1) アンケート調査（実施計画）

①観光客向けアンケート

項目	内容
調査目的	・ 恩納村内におけるマリンレジャー利用時の満足度を調査（種別、事業者、利用エリアなど） ・ エコソリズムやGreenFins等に関する認知度及び賛否意向を調査 ・ 財源確保に向けた各種制度等への理解度、賛否意向について調査
実施方法	・ ウェブアンケート方式（使用ツール：クエスタント） ・ OTA（アソビュー、ベルトラ）利用者から対象を抽出し、メルマガにてURLを周知 ・ 回収率向上のため、各OTAで利用できるポイントを付与（アンケート回答者に100P進呈）
実施期間	・ ①アソビュー：11/1～11/15 ・ ②ベルトラ：11/16～11/30 ・ その他メディア：12/1～12/31※調整中
抽出条件	・ 2024年1月～2025年10月までの期間中に、恩納村内のマリンアクティビティを利用 ・ 恩納村内でサービス提供をしている事業者※村外事業者含む ・ OTAを利用して予約したかた※県内在住者を含む
回収目標	・ OTA対象数：約10,000人×回答率2%＝200人 ・ その他メディア等でのアンケート周知＝50人 ・ 合計250人
設問	・ アンケートURL https://questant.jp/q/HPYNI8N5 

調査

(1) アンケート調査（実施計画）

②事業者向けアンケート

項目	内容
調査目的	・ 恩納村内の海域を利用するマリンレジャー事業者の営業実態を調査（法人形態、規模、売上など） ・ エコソリズムやGreenFins等に関する認知度及び賛否意向を調査 ・ 財源確保に向けた各種制度等への理解度、賛否意向について調査
実施方法	・ ウェブアンケート方式（使用ツール：クエスタント） ・ 回答用URL及びQRコードを、対象事業者へ配布する ・ 恩納村マリンレジャー協会、事業者のグループライン、恩納村公式LINE等で周知
実施期間	・ 11/1～12/31
抽出条件	・ 恩納村内のマリンアクティビティ事業者（届出事業者リストより抽出） ・ 恩納村内でサービス提供をしている事業者※村外事業者含む
回収目標	・ そんな以外の事業者100サンプル（個人事業主含む）
設問	・ アンケートURL https://questant.jp/q/OAB38MC7 

調査

(1) アンケート調査（実施計画）

③地域住民向けアンケート

項目	内容
調査目的	・ 恩納村在住者を対象に、エコツーリズムやGreenFins等に関する認知度及び賛否意向を調査 ・ マリンレジャー等に対する村民の感情や意識等を調査 ・ 財源確保に向けた各種制度等への理解度、賛否意向について調査
実施方法	・ ウェブアンケート方式（使用ツール：クエスタント） ・ 回答用URL及びQRコードを、対象者へ配布する ・ 対象事業者へHP、SNS、メール等で周知を図る
実施期間	・ 11/10～12/31
抽出条件	・ 恩納村在住者 ・ アンケートにて居住地によるセグメントを実施
回収目標	・ 100サンプル
設問	・ アンケートURL https://questant.jp/q/3VKVCBDP 

調査

(1) アンケート調査（実施計画）

④観光関係者向けアンケート

項目	内容
調査目的	・ 恩納村内の観光関係事業者を対象に、エコツーリズムやGreenFins等に関する認知度及び賛否意向を調査 ・ 財源確保に向けた各種制度等への理解度、賛否意向について調査
実施方法	・ ウェブアンケート方式（使用ツール：クエスタント） ・ 回答用URL及びQRコードを、対象事業者へ配布する ・ 対象事業者へメール等での周知を図る
実施期間	・ 11/10～12/31
抽出条件	・ 恩納村観光協会会員、商工会会員、飲食業組合加盟事業者等 ・ 恩納村内のホテル宿泊事業者
回収目標	・ 100サンプル（個人事業主含む）
設問	・ アンケートURL https://questant.jp/q/MRGXGXWI 

【参考資料】机上検討・現地踏査_地点図

名嘉真





安富祖

海岸アクセス口

オスカービーチ

No.5

100m北側に階段



安富祖

みゆきハマバルリゾート
前面にあるビーチ

No.6





瀬良垣

海岸アクセスロ

ナカユクイポイント

御菓子御殿にはビーチ利用者は駐車は
禁じられている
→展望台駐車場から歩いていくのは容認

No.7

ナカユクイ展望台

海岸アクセスロ

海岸アクセスロ

瀬良垣海岸

画像 ©2025 Airbus, Maxar Technologies、地図データ ©2025 日本 利用規約 プライバシー サービスに関するフィードバックを送信 50 m

瀬良垣



※路上駐車はマリンレジャー
利用でない可能性もある

瀬良垣

村および万座ビーチホテル所有？
レンタカー駐車している状況あり



ストリートビュー

路上駐車

私有地：カヤック事業者が利用



8/5撮影

No.9

瀬良垣地区
海岸保全地域
最近開発した場所

Google



レイヤ

恩納



恩納

イチグスク

宜志富島

一般社団法人
恩納村観光協会
最近閲覧した場所

No.B
目的外駐車

海岸アクセス口

干潮時など環境学習での干潟の利用がある。
恩納村観光協会と提携しているカヤックショップ
の利用のほか、提携外ショップの利用や、個人利
用客で施設トイレ等のマナーの低い利用もある。



Google



恩納



谷茶



OISTの土地所有であるが、立ち入り制限はされていない。カヤックショップなど数社が昔から利用している（カヤック、SUPが一部放置）

谷茶

シティ

美術館、博物館

交通機関

薬局

ATM



富着



仲泊



山田

恩納村マリンレジャー協会からの
情報

・夕方など外国人が路駐して
入っている状況が散見される

別の海岸アクセス口2

路上駐車

No.18

別の海岸アクセス口1

別の海岸アクセス口2

別の海岸アクセス口1

路駐スペース

ここから海岸
へ出れる

宇加地



■関係者向けアンケート

NO.	設問	回答形式	選択肢	分岐条件	必須・任意	備考
1	業種	単一	宿泊（ホテル・旅館・民泊など） 飲食（カフェ、居酒屋、レストランなど） その他サービス業（上記以外） 卸売・小売業（物販、お土産など） 金融・保険業 不動産業 農業・林業 漁業 製造業 運輸業 その他【自由記述】	なし	必須	
2	主たる事業所（または店舗）の所在地	単一	恩納村 恩納村以外	なし	必須	
3	恩納村が推進している「GreenFins」について※「Green Fins」はUNEP（国連環境計画）とReef World財団によるサンゴをはじめとした海洋生物や海の環境を保全し、持続可能なマリンレジャーを実現するための取り組みです。環境に配慮したダイビングやシュノーケリングのガイドライン作成と、それを遵守しているダイビングショップの評価・認定を行なっています。	単一	推進することに賛成 どちらでもない 推進することに反対 GreenFinsを知らない	なし	必須	共通
4	世界各地のビーチリゾートでは、環境保全や安全対策、サービス品質向上のための財源として、観光客などに一定の負担を求める制度（環境税や環境協力金など）が導入されているが、沖縄県や恩納村でもこのような制度を導入すべきだと思う	単一	とても賛成 賛成 どちらでもない 反対 とても反対	なし	必須	共通
5	環境税や協力金制度（寄付制度など）について、適切だと思う金額についてお答えください。 例：豪州クイーンズランド州では1日あたり10.25豪州ドル※日本円で約980円（1豪州ドル/95.76円換算時）	単一	1,000円以上 500円 300円 100円 払いたくない その他【自由記述】	なし	必須	共通
6	環境税や協力金制度（寄付制度など）について、適切だと思う使途について以下より選んでください（複数選択可）。	複数選択	サンゴ保全対策 海洋ゴミ対策 生物多様性の維持対策 マリンレジャーの安全対策 サービス向上のための施設整備や人材育成など	なし	必須	共通
7	恩納村でエコツーリズムを推進することについて ※エコツーリズム推進法とは、自然を守りながら観光を楽しむための仕組み。地域が計画（利用ルールや人数制限、ガイド活用など）を作成し、住民・事業者・行政が協力し、環境保全と観光を両立するための仕組み。	単一	エコツーリズムの推進に賛成 どちらでもない エコツーリズムの推進に反対 エコツーリズムを知らない	なし	必須	共通
8	その他のご意見・ご要望について自由にお書きください。	自由記述（文章）	—	なし	任意	

■観光客向けアンケート

NO.	設問	回答形式	選択肢	分岐条件	必須・任意	備考
1	年齢	単一	10代、20代、30代、40代、50代、60代、70代以上 400万円未満 400～800万円未満	なし	必須	
2	世帯収入（年金等を含む）	単一	800～1000万円未満 1000～3000万円未満 3000万円以上	なし	必須	
3	ツアー・アクティビティを実施した場所についてお答えください	単一	恩納村真栄田岬（青の洞窟） 恩納村真栄田岬以外 恩納村以外	なし	必須	
4	ツアー・アクティビティの満足度	単一	大変満足、やや満足、どちらともいえない、やや不満、大変不満	なし	必須	
5	利用したショップ	自由記述（短文）	—	なし	必須	
6	利用した時期はいつですか？	単一	1月、2月、3月、4月、5月、6月、7月、8月、9月、10月、11月、12月 シュノーケリング ファンダイビング 体験ダイビング ダイビングライセンス講習 スキンドайビング・フリーダイビング サーフィン スタンドアップパドルボード（SUP） ジェットスキーやバナナボート等 カヌー・カヤック 3000円未満 3000～5000円未満 5000～10000円未満 10000～15000円未満 15000円～20000円未満 20000円以上	なし	必須	
7	利用したツアー・アクティビティについてお答えください	単一	項目（縦） 設備、価格、接客、ガイドや講習など	なし	必須	
8	利用したツアー・アクティビティの料金についてお答えください。※1人あたりの料金総額	単一	選択肢（横） とても満足、満足、やや満足、どちらでもない、やや不満、不満、とても不満 とても高まった、やや高まった、どちらでもない、あまり関心がない、まったく関心がない	なし	必須	
9	利用したマリンレジャー事業者の満足度は？	マトリックス形式	詳しく知っている（内容や認定項目まで） ある程度知っている（名前は聞いたことがある） まったく知らない	なし	必須	
10	ツアー・アクティビティに参加して、環境保全意識が高まったか 「Green Fins」といわれる制度をご存じですか？ ※「Green Fins」はUNEP（国連環境計画）とReef World財団によるサンゴをはじめとした海洋生物や海の環境を保全し、持続可能なマリンレジャーを実現するための取組みです。環境に配慮したダイビングやシュノーケリングのガイドライン作成と、それを遵守しているダイビングショップの評価・認定を行っています。	単一	大きな影響を与えた ある程度影響を与えた あまり影響を与えなかった まったく影響を与えなかった 参加するまで知らなかった アンケートを見るまで知らなかった	なし	必須	
11		単一	とても賛成 やや賛成 どちらでもない やや反対 とても反対	なし	必須	共通
12	Green Fins認定がショップ選びにどのような影響を与えましたか？	単一		なし	必須	
13	世界各地のビーチリゾートでは、環境保全や安全対策、サービス品質向上のための財源として、観光客などに一定の負担を求める制度（環境税や環境協力金など）が導入されているが、沖縄県や恩納村でもこのような制度を導入すべきだと思う	単一		なし	必須	共通

14	環境税や協力金制度（寄付制度など）について、負担してもいいと思う金額についてお答えください。 例：豪州クイーンズランド州では1日あたり10.25豪州ドル※日本円で約980円（1豪州ドル/95.76円換算時）	単一	1,000円以上 500円 300円 100円 払いたくない その他【自由記述】 サンゴ保全対策 海洋ゴミ対策 生物多様性の維持対策 マリンレジャーの安全対策 サービス向上のための施設整備や人材育成など その他【自由記述】	なし	必須	共通
15	環境税や協力金制度（寄付制度など）について、適切だと思う使途について以下より選んでください。	単一	詳しく知っている（制度や導入地域など） ある程度知っている（名前は聞いたことがある） まったく知らない	なし	必須	共通
16	恩納村では、豊かな自然環境の保全と観光振興の両立を図るべく、2027年度から「エコツーリズム推進法」を活用した、海の利用についてルールを定めることを目指しています。エコツーリズム推進法をご存じですか？	単一	期待以上だった点 期待以下だった点 その他要望など	なし	任意	共通
17	ツアー・アクティビティに参加して、「期待以上だった点」や「期待以下だった点」についてお聞かせください。 その他、恩納村やショップに対しての要望など自由にご記入ください	自由記述（文章）				

■事業者向けアンケート

NO.	設問	回答形式	選択肢	分岐条件	必須・任意	備考
1	法人形態	単一	法人（株式会社、有限会社など） 個人事業主（フリーランスなど） その他	なし	必須	
2	会社（または店舗）の所在地	単一	恩納村 恩納村以外	なし	必須	
3	正規雇用している従業員の数（代表者・非常勤・短期アルバイト等は除く）	単一	0人 1～3人未満 3～5人未満 5～9人未満 10人以上 1000万円未満 1000～3000万円未満 3000～5000万円未満 5000～1億円未満 1億～2億円未満 2億円以上	なし	必須	
4	年間売上高についてお聞かせください	単一	3000～5000万円未満 5000～1億円未満 1億～2億円未満 2億円以上	なし	必須	
5	マリンアクティビティを提供する主なエリア	単一	恩納村真栄田岬（青の洞窟、裏真栄田など） 恩納村真栄田岬以外 その他【自由記述】 ファンダイビング 体験ダイビング	なし	必須	
6	自社が提供しているメニューについて	単一	シュノーケリング サーフィン スタンドアップパドルボード（SUP） ジェットスキーやバナナボート等 外部セミナーへの参加やスタッフへ定期的な安全指導 安全対策に関するマニュアルを作成しスタッフへ共有 利用器具等の定期的な点検	なし	必須	
7	安全対策について	単一	適正人数でのツアー実施（体験ダイビングであれば2名まで、ファンダイビングであれば4名まで等） 海況などコンディションチェック ゲストに対する事前の体調チェックなど その他【自由記述】 海にごみを捨てない、出さない 餌付けなどをしない、させない	なし	必須	
8	環境への配慮について、自社で取り組んでいること（複数選択可）。	複数選択	サンゴに負荷を与えない（アンカリング、上に立つ、接触するなど） 環境に負荷を与える日焼け止めや洗剤を利用しない 下水や排水を直接海や川に流さない その他【自由記述】	なし	必須	
9	恩納村が推進している「GreenFins」について ※「Green Fins」はUNEP（国連環境計画）とReef World財団によるサンゴをはじめとした海洋生物や海の環境を保全し、持続可能なマリンレジャーを実現するための取組みです。環境に配慮したダイビングやシュノーケリングのガイドライン作成と、それを遵守しているダイビングショップの評価・認定を行っています。	単一	推進することに賛成 どちらでもない 推進することに反対 GreenFinsを知らない	なし	必須	共通
10	世界各地のビーチリゾートでは、環境保全や安全対策、サービス品質向上のための財源として、観光客などに一定の負担を求める制度（環境税や環境協力金など）が導入されているが、沖縄県や恩納村でもこのような制度を導入すべきだと思う	単一	とても賛成 賛成 どちらでもない 反対 とても反対	なし	必須	共通
11	環境税や協力金制度（寄付制度など）について、適切だと思う金額についてお答えください。 例：豪州クイーンズランド州では1日あたり10.25豪州ドル※日本円で約980円（1豪州ドル/95.76円換算時）	単一	1,000円以上 500円 300円 100円 その他【自由記述】	なし	必須	共通
12	環境税や協力金制度（寄付制度など）について、適切だと思う使途について以下より選んでください（複数選択可）。	複数選択	サンゴ保全対策 海洋ゴミ対策 生物多様性の維持対策 マリンレジャーの安全対策 サービス向上のための施設整備や人材育成など	なし	必須	共通
13	恩納村でエコツーリズムを推進することについて ※エコツーリズム推進法とは、自然を守りながら観光を楽しむための仕組み。地域が計画（利用ルールや人数制限、ガイド活用など）を作成し、住民・事業者・行政が協力し、環境保全と観光を両立するための仕組み。	単一	エコツーリズムの推進に賛成 どちらでもない エコツーリズムの推進に反対 エコツーリズムを知らない	なし	必須	共通

14	その他のご意見・ご要望について自由にお書きください。	自由記述（文章）		なし	任意	
----	----------------------------	----------	--	----	----	--

■地域住民向けアンケート

NO.	設問	回答形式	選択肢	分岐条件	必須・任意	備考
1	現在、恩納村にお住まいですか。	単一	はい	なし	必須	
2	「サンゴの村宣言プロジェクト」を知っていますか。	単一	いいえ よく知っている 聞いたことがある 知らない 混雑	なし	必須	
3	海や海岸を利用した際、気になったことがあれば教えてください（複数選択可）。	複数選択	観光客のマナー（ごみ・騒音など） 安全面への不安（水難事故など） 環境への負荷（サンゴ・生き物・景観） 違法駐車・交通渋滞・乱暴運転など 治安に対する不安 特になし その他【自由記述】 とてもそう思う そう思う	なし	必須	
4	マリンレジャーは地域経済に役立っていると思いますか。	単一	どちらともいえない あまり思わない 全く思わない	なし	必須	
5	恩納村の自然環境を守るために、「保護エリアの指定」「入域数の上限設定」「利用時間ごとの人数調整」「事業者の許可制度や利用条件の設定」「観光客や利用者への教育義務化」など、ルール導入について賛成ですか。	単一	とても賛成 賛成 どちらでもない 反対 とても反対	なし	必須	
6	恩納村・事業者・住民・観光客等が協力して進める取組で、関心のあるものを教えてください（複数選択可）。	複数選択	ビーチクリーンなどの海ごみ対策 安全啓発（遊泳・マナー） 自然観察会・環境学習 混雑情報の発信（渋滞や混雑情報） 環境保全のための寄付制度や基金設立など 特になし その他【自由記述】	なし	必須	
7	恩納村が推進している「GreenFins」について※「Green Fins」はUNEP（国連環境計画）とReef World財団によるサンゴをはじめとした海洋生物や海の環境を保全し、持続可能なマリンレジャーを実現するための取組みです。環境に配慮したダイビングやシュノーケリングのガイドライン作成と、それを遵守しているダイビングショップの評価・認定を行なっています。	単一	推進することに賛成 どちらでもない 推進することに反対 GreenFinsを知らない	なし	必須	
8	世界各地のビーチリゾートでは、環境保全や安全対策、サービス品質向上のための財源として、観光客などに一定の負担を求める制度（環境税や環境協力金など）が導入されているが、沖縄県や恩納村でもこのような制度を導入すべきだと思う	単一	とても賛成 賛成 どちらでもない 反対 とても反対	なし	必須	
9	環境税や協力金制度（寄付制度など）について、適切だと思う金額についてお答えください。 例：豪州クイーンズランド州では1日あたり10.25豪州ドル※日本円で約980円（1豪州ドル/95.76円換算時）	単一	1,000円以上 500円 300円 100円 払いたくない その他【自由記述】	なし	必須	
10	環境税や協力金制度（寄付制度など）について、適切だと思う使途について以下より選んでください（複数選択可）。	複数選択	サンゴ保全対策 海洋ゴミ対策 生物多様性の維持対策 マリンレジャーの安全対策 サービス向上のための施設整備や人材育成など	なし	必須	
11	恩納村でエコツーリズムを推進することについて ※エコツーリズム推進法とは、自然を守りながら観光を楽しむための仕組み。地域が計画（利用ルールや人数制限、ガイド活用など）を作成し、住民・事業者・行政が協力し、環境保全と観光を両立するための仕組み。	単一	エコツーリズムの推進に賛成 どちらでもない エコツーリズムの推進に反対 エコツーリズムを知らない	なし	必須	